



# コロナ禍の時世に 短歌で心を癒やす！

令和2年7月3日(金)の読売新聞朝刊、よみうり文芸(24面)に、3名の鳩山町民の下記の短歌が掲載されました。同時に3名も掲載されたということもあり、短歌を創作することについて込める想いや、活動等について、それぞれお話を伺いました。

【5月の月間賞(短歌)】

マスクしてマスクを避けて足早に  
買物済ませスーパーを出る

小森清市さん



平成14年にふと思いついた歌を当時、購読していた新聞に投稿したところ、掲載されたのが短歌を始めたきっかけです。

この歌は3月頃、近所のスーパーに行ったときに世相を反映して詠った歌です。私は、主に世相(時代)、風景(自然)、人の心(心象)などを題材にして歌を詠みます。この歌のように、見た通りのことを、いつもそのまま表現しようとしています。自分は上手いなど、思いあがっているときはまず掲載されたことはありません。素直な心で歌を詠むことが一番大事なことであると心がけています。

平成23年の定年退職をきっかけに農業に力を入れ始め、同時に時間ができたので61歳の誕生日から短歌を作り始めました。農業をしていると色々なことがあり、それを歌に詠みこみます。今回掲載の歌も、田植えを終えて、田を廻っているときの情景を詠んだ歌になっています。こうした生活の有り様をそのまま詠むようにしており、逆に心象を詠むのはとても難しいと感じています。短歌の勉強は日々行っています。

新聞などに掲載されると反響が大きく、妹からもすぐに「載っていたね」というメールも届きます。こうしたつながりが、とても励みになっています。



【秀逸】

田を廻り水口確認してをれば  
畦にのそりと青大将出づ

仲島公夫さん

【入選】

「竹の子を掘ってきたよ」と軽トラの  
友はどさりと我が玄関に

杉山廣子さん



私は元々農家の出身なので、鳩山町に越してきて以来、農業を行っている人と交流できるのをとても嬉しく感じています。今回掲載された歌も、竹の子を届けてくれた、友人との交流をそのまま詠ったものです。

短歌を詠んでいると、日々、目に入る情景が題材になるのでは、素材になるのではないかと考えながら歩く習慣がつかます。見過ごしていたものが見えるようになり、ぼんやり過ごさなくなりました。また、日々感じたことを書き付けたり、歌にすると日記代わりにもなります。これからも生活の様子を上手に、かつ素直に詠んでいければよいなと思っています。



## 埼玉行政書士会と

# 「災害時における被災者支援に関する協定」が 調印されました

8月20日(木)、町長公室にて、町と埼玉行政書士会との間で、「災害時における被災者支援に関する協定」が調印されました。

本協定は、鳩山町内に地震災害、大雨災害、風災害、雪害等の自然災害並びに、火災等の人為災害(大規模事故)が発生した場合に、町の要請に基づき、埼玉県行政書士会に所属する会員が派遣され、行政書士が関与できる雇証明申請書類に関する相談や自動車登録申請書類に関する相談などの相談業務について、無料で実施するものです。

この協定により、被災者の生活再建に必要な各種事務手続きの円滑化を図り、迅速な被災者支援を行うことが可能となり、町民生活の安全・安心を確保します。



▲協定書を手にする埼玉県行政書士会 関口会長(写真右)と小峰町長(写真左)

## 令和2年度第5回認知症普及啓発コラム

### レポ 認知症サポーター養成講座を開催しました

7月31日(金) 鳩山町民生委員・児童委員協議会で「認知症サポーター養成講座」を開催しました。会場では、熱心にメモをとりながら受講する民生委員・児童委員の方々の姿がありました。

認知症サポーター養成講座は、認知症施策推進大綱にも位置付けられている重要施策の一つであり、「認知症サポーターの活動」とは、認知症を正しく理解し、認知症の人や家族をあたかく見守ることとされています。



講座終了後に配られる「オレンジリング」は、「認知症の人を応援します」

という意味を示す目印となります。今後も、短期大学、小学校などで開催予定です。

受講をご希望の方は、町地域包括支援センターまでご連絡ください。

■問合せ 町地域包括支援センター  
☎ 296-7700



## 「ハトミライ☆プロジェクト」

# ふくしまサクラの除草作業が行われました



▲石坂の森での除草作業は、県立鳩山高等学校の生徒、職員、NPO法人 里山環境プロジェクト・はとやま会員の皆さんにより行われました



▲地球観測センター内での除草作業の様子(写真左)  
石坂の森でのサクラの支柱を交換する様子(写真右)

県立鳩山高等学校の生徒が発案し地域活性化につながるよう企画した「ハトミライ☆プロジェクト」の一環で、植樹した「ふくしまサクラ」の除草作業が地球観測センター内と石坂の森で2日間行われました。

7月28日(火)は、地球観測センター内で、令和2年3月25日に植樹した「ふくしまサクラ(八重桜1本、枝垂れ桜2本)」周辺の除草作業と、支柱の交換が鳩山高校の生徒会により行われました。

7月31日(金)の石坂の森での除草作業では、鳩山高校の生徒会と有志による生徒9名及び職員4名が参加。またNPO法人里山環境プロジェクト・はとやまの会員7名が協力しました。平成31年3月27日に植樹した「ふくしまサクラ(ヤマザクラ)」は、10本中7本が活着。生徒たちは、里山環境プロジェクト・はとやまの会員による指導のもと、サクラの支柱を交換する作業と周辺の除草作業に一所懸命に取り組み、世代を超えた交流が見られました。

有志で参加した生徒からは「参加してみても楽しかった。機会があればまた参加したい」、生徒会の生徒からは「先輩が植樹したサクラをきちんと引き継いでいきたい」という話がそれぞれありました。

## 令和2年度

# 埼玉県健康長寿優秀市町村表彰で「優良賞」を受賞

埼玉県では、健康長寿埼玉プロジェクトを含めた健康づくりを全県で推進するため、特に優れた事業を行った市町村に対し、埼玉県国民健康保険給付費等交付金の交付と、健康長寿優秀市町村表彰を実施しています。

鳩山町では、栄養・運動・社会参加を三本柱とした「鳩山モデル」により、健康増進から介護予防まで一体的な取り組みを展開しています。このたび、令和元年度に実施した「健寿ウォークでキョットネス」において健康寿命の延伸と医療費抑制効果が認められ、健康長寿優秀市町村表彰で「優良賞」を受賞し、保険給付費等交付金500万円が交付されました。

この事業は、ウォーキングをメインとして、手軽にできる栄養バランスの良い食事を学ぶ教室、生活習慣病予防行動を脳科学から考える講演など、11種類のフォローアップ事業「キョットネスシリーズ」により、継続的な運動をサポートするもので、年間約500人の方にご参加いただきました。鳩山町は優秀賞及び優良賞を合わせ、5年連続の受賞となりました。



▲埼玉県健康長寿優秀市町村表彰の表彰状を手にする小峰町長



▶鳩山町は優秀賞および優良賞を合わせ5年連続の受賞となりました。